

食品安全モニター課題報告

「食品の安全性に関する用語集等について」(平成19年2月実施)の結果 **抜粋**

1. 調査目的

食品安全委員会では、リスク評価の内容などに関する意見交換会等の際に消費者をはじめとする関係者の理解を助けるための基礎的な参考資料として、基本的な用語等を解説した「食品の安全性に関する用語集」を発行している。本用語集を更に充実させる上での参考とするため、食品安全モニターに対し、用語集の利用状況、用語の充実度など、本用語集に対する評価について調査した。

また、「いわゆる健康食品」の浸透度合いなどを把握するため、摂取状況、摂取する理由や摂取しない理由、情報の入手先などの調査を併せて行った。

調査項目は、次の2項目である。

1. 「食品の安全性に関する用語集」について
(用語集の利用状況、用語の充実度、用語の追加、用語解説への理解など)
2. いわゆる健康食品の摂取状況について
(摂取状況、摂取理由、摂取しない理由、摂取しているいわゆる健康食品、情報の入手先など)

2. 実施期間

平成19年2月21日～3月6日

3. 対象

食品安全モニター	470名	
有効回答数	404名	(有効回答率:86.0%)

1) 食品安全モニターの回答者数の内訳

① 男女別：

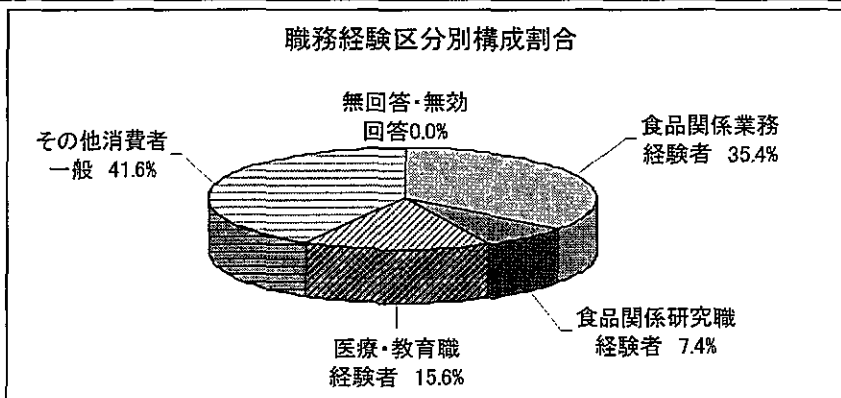
	回答者数	割合
全体	404 人	100.0%
男性	136 人	33.7%
女性	268 人	66.3%

② 年齢別：

	回答者数	割合
全体	404 人	100.0%
20～29 歳	30 人	7.4%
30～39 歳	90 人	22.3%
40～49 歳	101 人	25.0%
50～59 歳	80 人	19.8%
60～69 歳	79 人	19.6%
70 歳以上	24 人	5.9%

③ 職務経験区分別：

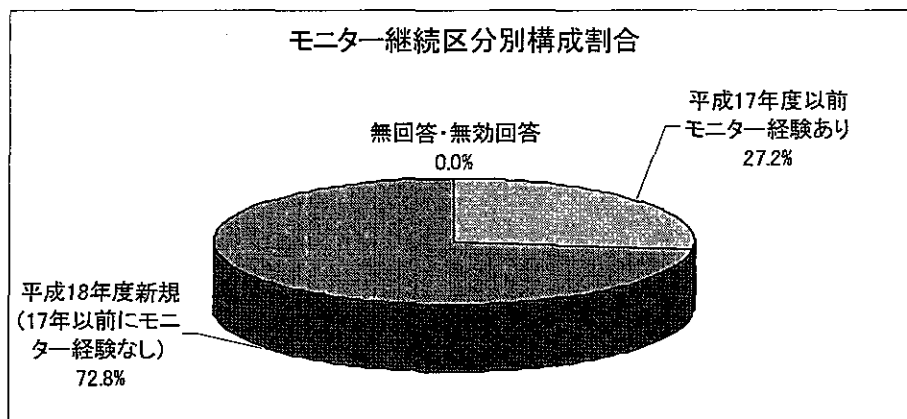
食品関係業務経験者	・現在もしくは過去において、食品の生産、加工、流通、販売等に関する職業(飲食物調理従事者、会社・団体等役員などを含む)に就いた経験を5年以上有している方 ・過去に食品の安全に関する行政に従事した経験を5年以上有している方	143 人
食品関係研究職経験者	・現在もしくは過去において、試験研究機関(民間の試験研究機関を含む)、大学等で食品の研究に関する専門的な職業に就いた経験を5年以上有している方	30 人
医療・教育職経験者	・現在もしくは過去において、医療・教育に関する職業(医師、獣医師、薬剤師、看護師、小中高校教師等)に就いた経験を5年以上有している方	68 人
その他消費者一般	・上記の項目に該当しない方	168 人



	男女別		年代区分別			全体
	男性	女性	20～39 歳	40～59 歳	60 歳以上	
食品関係業務経験者	77 人	66 人	36 人	65 人	42 人	143 人
	53.8%	46.2%	25.2%	45.5%	29.4%	100.0%
食品関係研究職経験者	15 人	15 人	10 人	11 人	9 人	30 人
	50.0%	50.0%	33.3%	36.7%	30.0%	100.0%
医療・教育職経験者	19 人	44 人	18 人	21 人	24 人	63 人
	30.2%	69.8%	28.6%	33.3%	38.1%	100.0%
その他消費者一般	25 人	143 人	56 人	84 人	28 人	168 人
	14.9%	85.1%	33.3%	50.0%	16.7%	100.0%

④ モニター継続区分別：

- 過去においても食品安全モニターに依頼されていた方
(以下、「継続モニター」という) 110 人
- 平成 18 年度から、食品安全モニターに依頼された方
(以下、「新規モニター」という) 294 人



2) いわゆる健康食品の摂取状況について

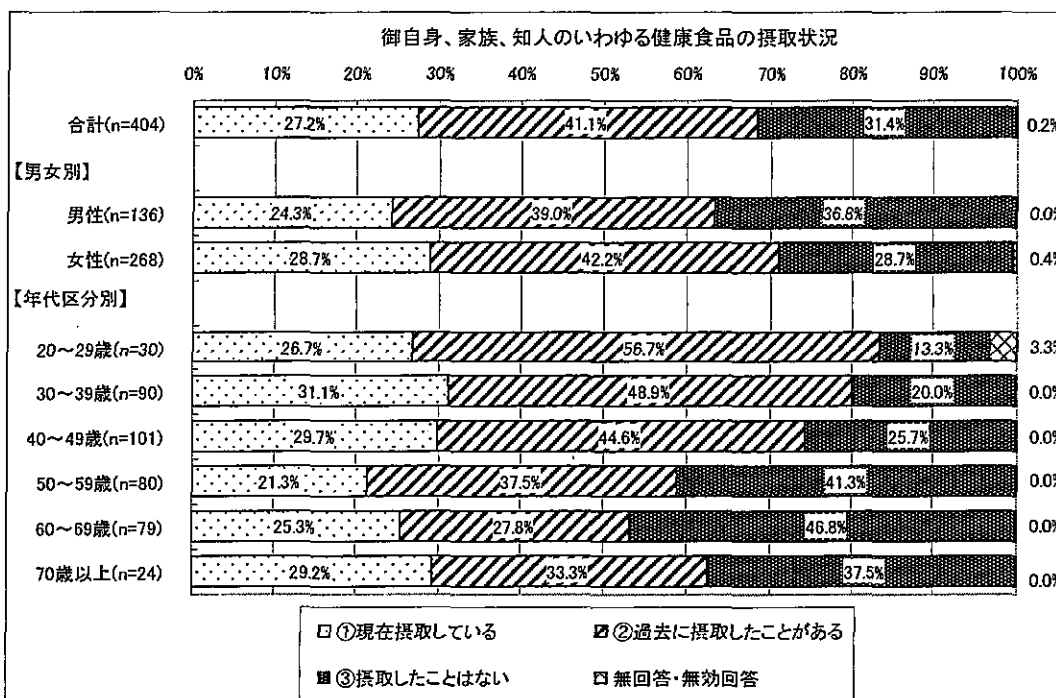
① 御自身あるいは家族、知人のいわゆる健康食品の摂取状況

問8 あなたはこれまでいわゆる健康食品を摂取したことがありますか。次の中から一つ選び、選び、回答欄に該当する番号を記入してください。

◆ いわゆる健康食品の摂取経験は約7割で、若年層ほどその傾向は高まる

いわゆる健康食品を「現在摂取している」(27.2%)と「過去に摂取したことがある」(41.1%)の両方を合わせた7割弱が、摂取経験がある結果であった。

摂取経験については、年代区別では若年層に従い摂取経験は高まる傾向であった。



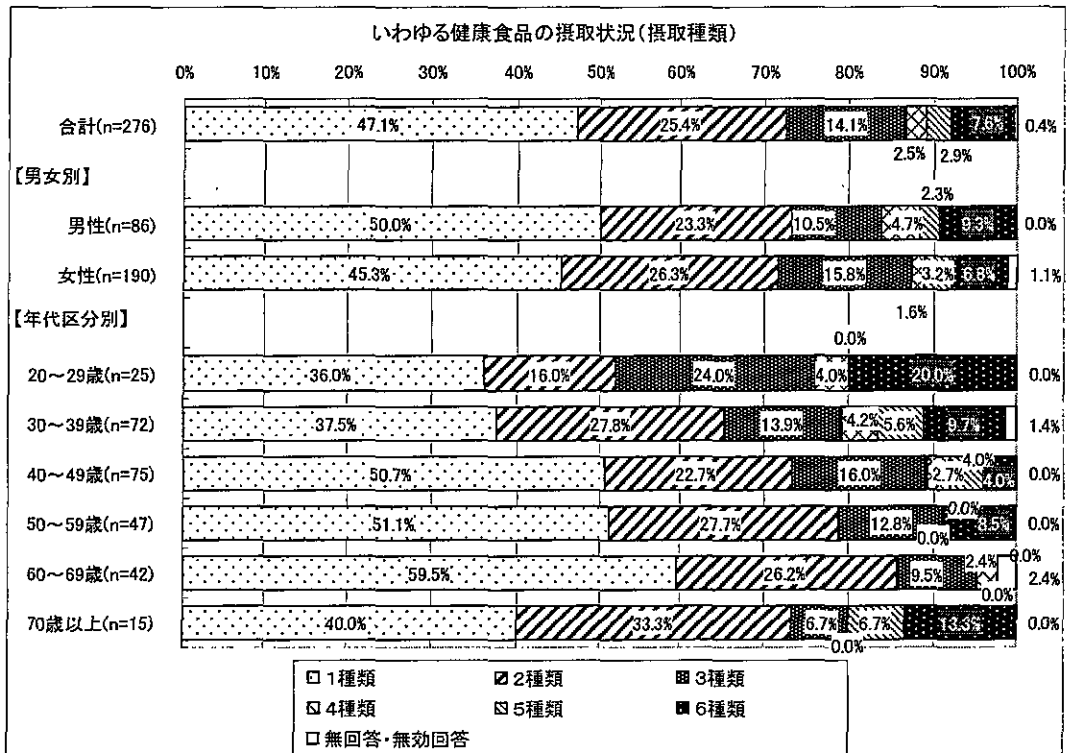
② 摂取種類、摂取頻度、摂取期間

問9 問8で「①現在摂取している」、「②過去に摂取したことがある」と答えた方に伺います。摂取したことがあるいわゆる健康食品の摂取種類、摂取頻度、摂取期間について、次の中からそれぞれ一つずつ選び、回答欄に該当する番号を記入してください。

i) 摂取種類

◆ 1種類の摂取経験は5割弱、2種類の摂取は2割強

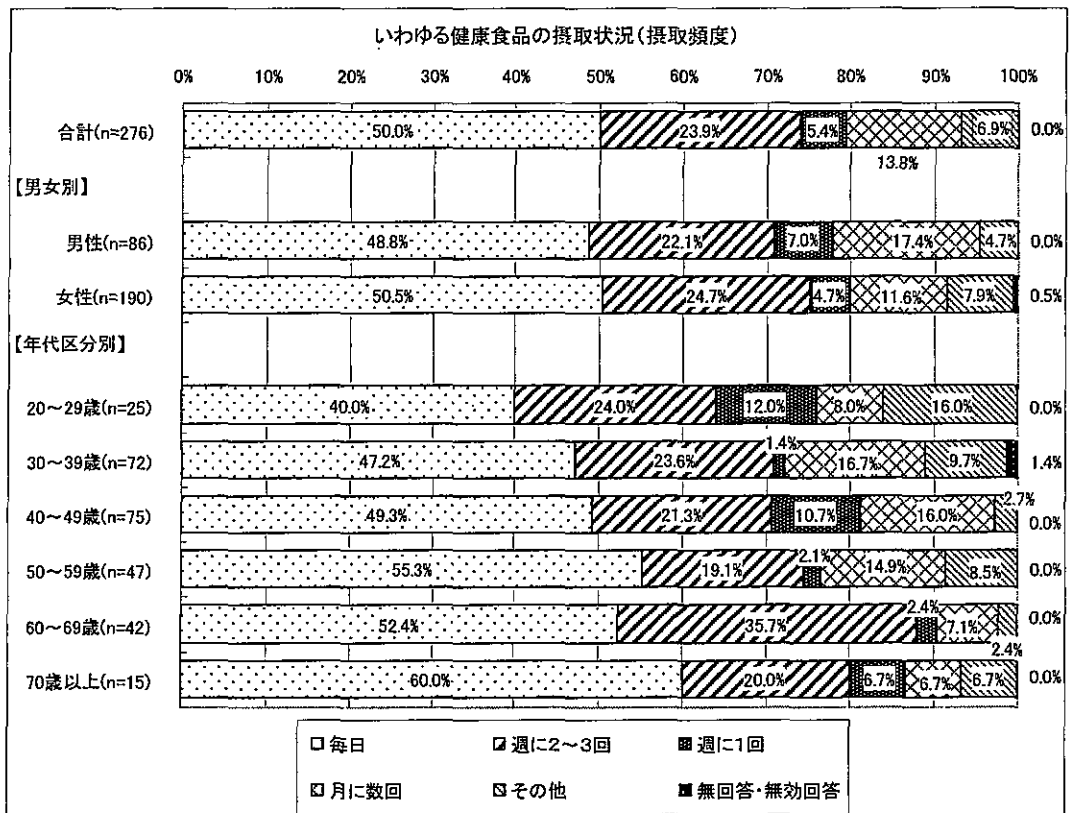
いわゆる健康食品を摂取したことがある人に対し、摂取したことがある摂取種類を聞いたところ、「1種類」が47.1%、「2種類」が25.4%であった。



ii) 摂取頻度

◆ 摂取は「毎日」が半数、「週に2～3回」が2割強

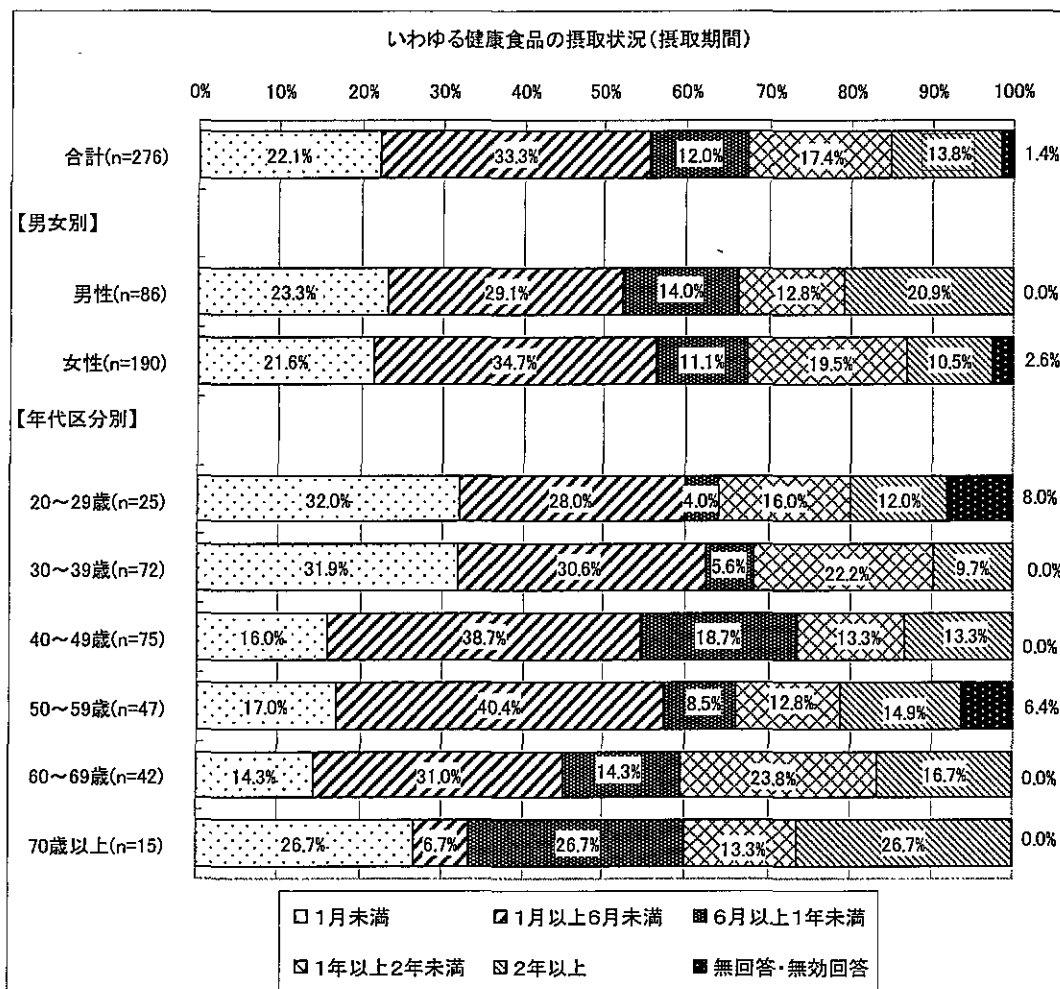
いわゆる健康食品を摂取したことのある人に対し、摂取したことのあるいわゆる健康食品の摂取頻度を聞いたところ、「毎日」が50.0%、「週1～2回」が23.9%であった。



iii) 摂取期間

◆ 最も多い摂取期間は「1月以上6月未満」であり3割強、続いて「1月未満」で2割強

いわゆる健康食品を摂取したことのある人に対し、摂取期間をきいたところ、「1月以上6月未満」が33.3%、「1月未満」が22.1%であり、この二つの選択肢の合計（6月未満）は5割強であった。続いて「1年以上2年未満」が17.4%、「2年以上」が13.8%、「6月以上1年未満」が12.0%であった。



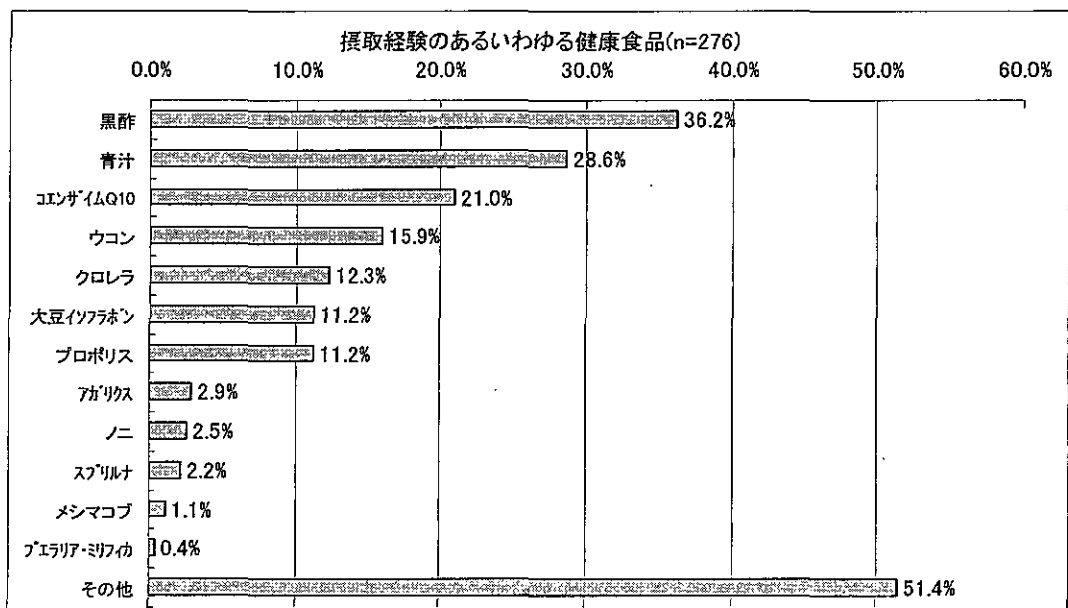
③ 摂取経験のあるいわゆる健康食品

問9 問8で「①現在摂取している」、「②過去に摂取したことがある」と答えた方に伺います。摂取したことのいわゆる健康食品は具体的にはどのようなものですか。次の中から選び、回答欄に該当する番号を記入してください（複数回答可）。また摂取したことのいわゆる健康食品は具体的にはどのようなものですか。次の中から選び、回答欄に該当する番号を記入してください。（複数回答可）。

今まで食の安全ダイヤル等に関い合わせのあったもの及び平成17年度食品安全確保総合調査において回答数の多かったものを掲載しています。

◆ 摂取経験のあるいわゆる健康食品の中で、黒酢の摂取は4割弱、青汁の摂取は3割弱、コエンザイムQ10は2割強

いわゆる健康食品を摂取したことのあつた人に対し、摂取したことのあつたものについて具体的にきいたところ、「黒酢」が36.2%、「青汁」が28.6%、「コエンザイムQ10」が21.0%であつた。続いて、ウコン、クロレラ、大豆イソフラボン、プロポリスという順に高い。



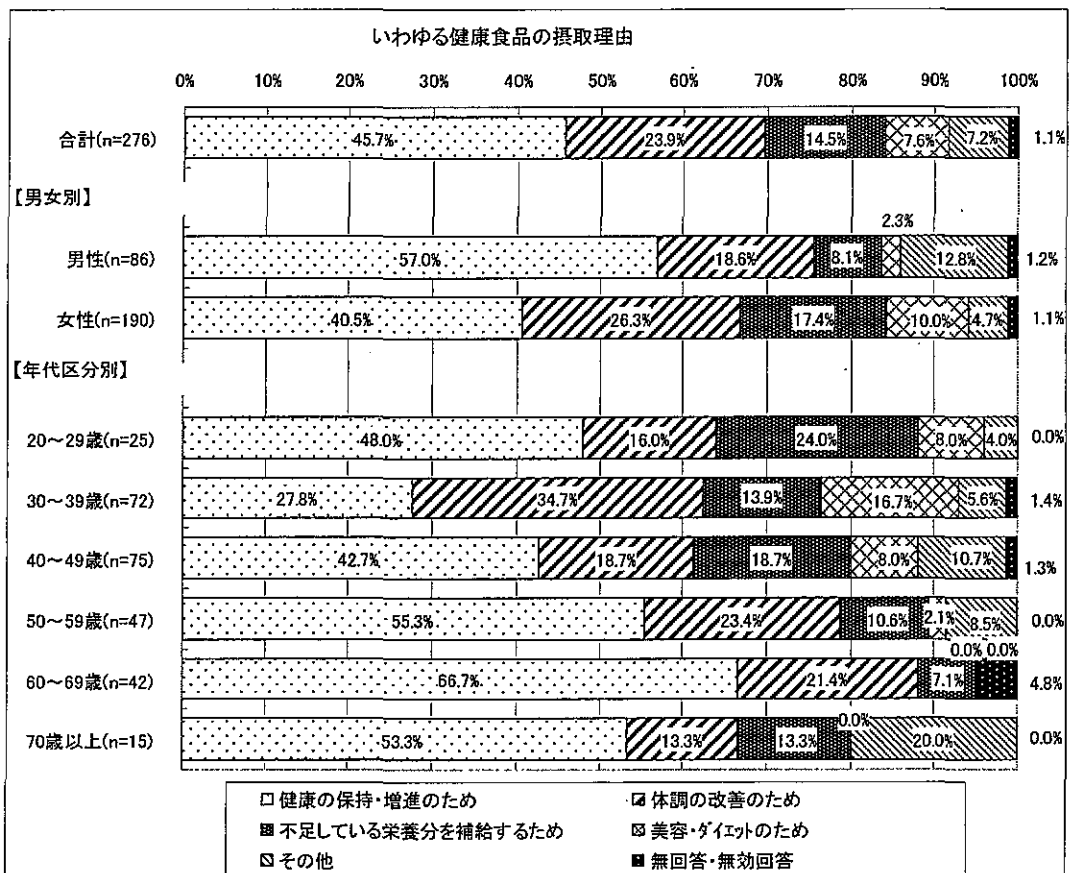
④ 摂取理由

問 10 問 8 で「①現在摂取している」、「②過去に摂取したことがある」と答えた方に伺います。いわゆる健康食品を摂取した理由について、次の中から一つ選び、回答欄に該当する番号を記入してください。

◆「健康保持・増進」という摂取理由が最も高く約5割、続いて「体調改善」が2割強

いわゆる健康食品を摂取したことのある人に対し、摂取した理由についてきいたところ、「健康保持・増進」が45.7%、「体調改善」が23.9%、「不足している栄養成分を補給するため」が14.5%であった。

男女別では、どちらも「健康保持・増進」が最も多い理由だが、「不足している栄養成分を補給するため」と回答した割合は、男性より女性の方が高かった。

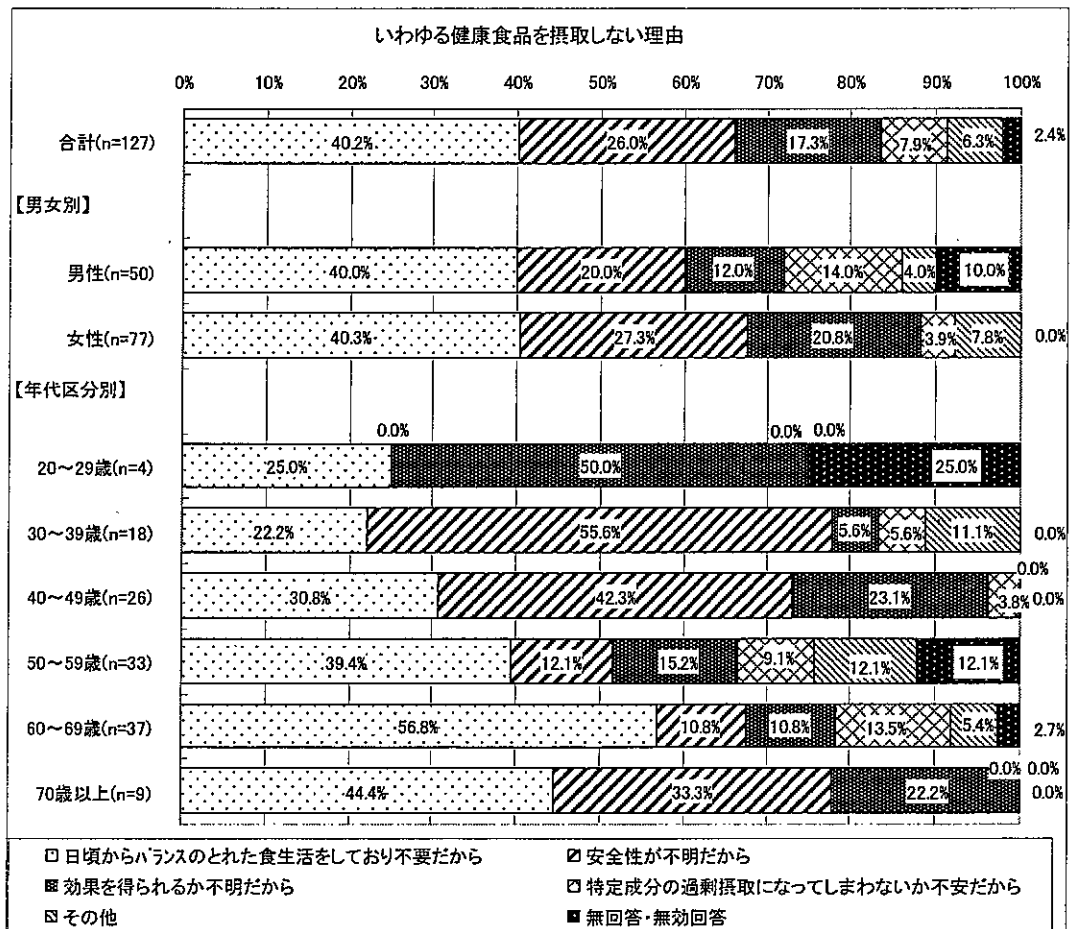


⑤ 摂取しない理由

問 11 問 8 で③「摂取したことはない」と答えた方に伺います。いわゆる健康食品を摂取しない理由について、次の中から一つ選び、回答欄に該当する記号を記入してください。

- ◆ いわゆる健康食品を摂取しない理由としては「日頃からバランスのとれた食生活をしており不要だから」が4割強が、「安全性が不明だから」が2割強、「効果が得られるか不明だから」が2割弱

いわゆる健康食品を摂取したことの無い人に対し、摂取しない理由について具体的に聞いたところ、「日頃からバランスのとれた食生活をしており不要だから」が40.2%、「安全性が不明だから」が26.0%、「効果が得られるか不明だから」が17.3%であった。

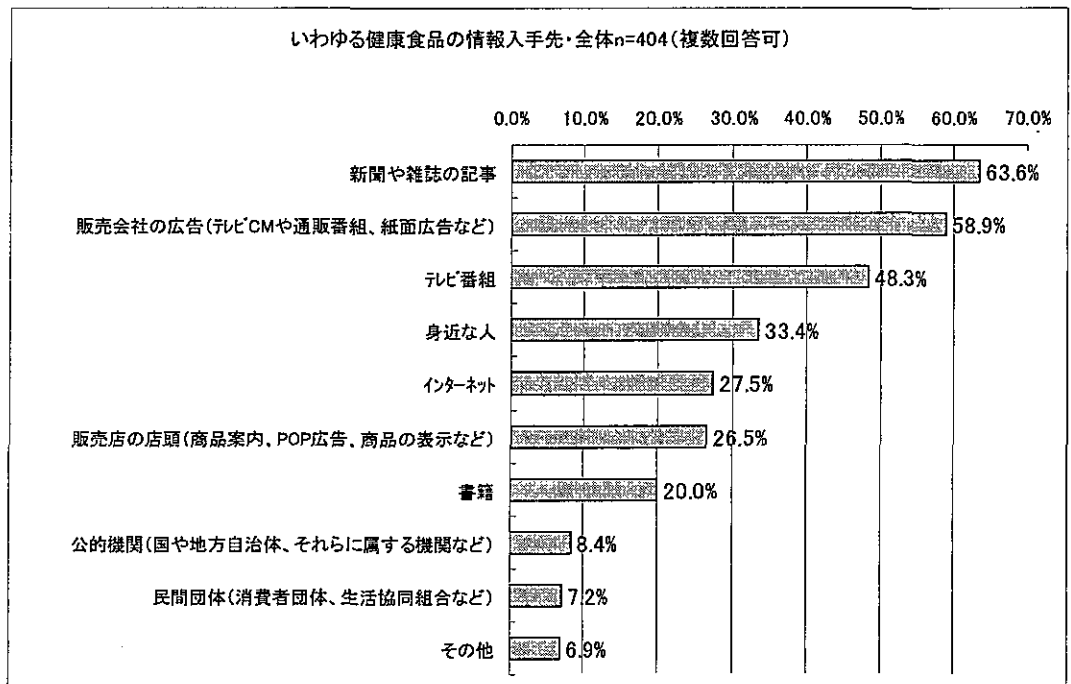


⑥ 情報の入手先

問 12 いわゆる健康食品についての情報をどちらから入手していますか。次の中から選び、回答欄に該当する番号を記入してください（複数回答可）。

◆ いわゆる健康食品の情報入手先として6割強が「新聞や雑誌の記事」、続いて「販売会社の広告」、「テレビ番組」と続く

いわゆる健康食品の情報入手先として「新聞や雑誌の記事」が63.6%、「販売会社の広告」が58.9%、「テレビ番組」が48.3%、「身近な人」が33.4%であった。

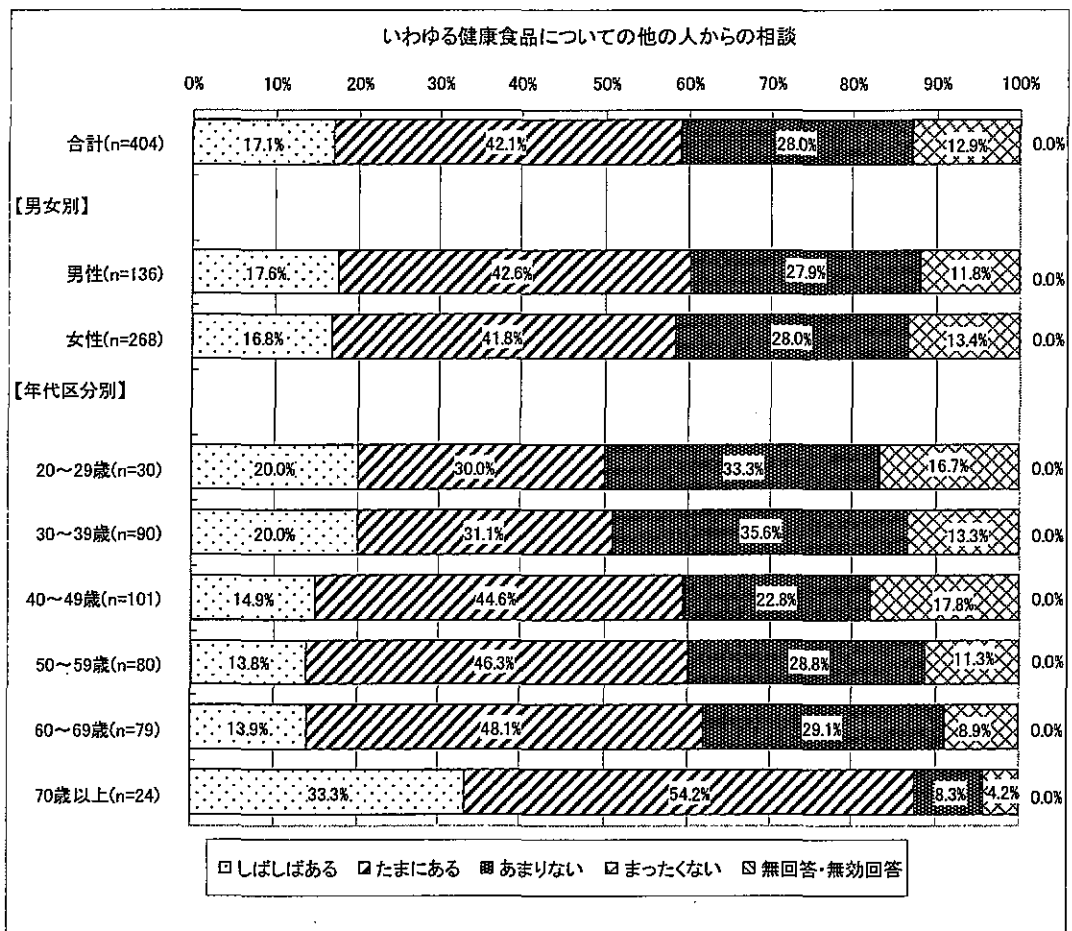


⑦ 他の人から相談を求められる頻度

問 13 いわゆる健康食品について、他の人から相談を求められることがどのくらいありますか。次の中から一つ選び、回答欄に該当する番号を記入してください。

◆ いわゆる健康食品について、6割弱が他の人から相談を求められる傾向

いわゆる健康食品について、他の人から相談を求められることは「しばしばある」という回答割合が17.1%、「たまにある」が42.1%、「あまりない」が28.0%、「まったくない」が12.9%であった。



⑧ いわゆる健康食品を将来摂取する場合の理由

問 14 いわゆる健康食品を仮に将来において摂取するとした場合、それはどのような理由からになると思いますか。次の中から一つ選び、回答欄に該当する番号を記入してください。

◆ いわゆる健康食品を仮に将来において摂取する場合の理由は「健康保持・増進」が最も多く4割強、続いて「体調改善」が2割弱

いわゆる健康食品を仮に将来において摂取する場合の理由を聞いたところ、「健康保持・増進のため」が44.3%、「体調の改善のため」19.8%、「不足している栄養成分を補給するため」が14.1%であった。この選択肢の順は、いわゆる健康食品を現在摂取している人の摂取理由と同じであった。

